

幼児が一人一人の良さを生かし、友達や教師と共に
元気に生活するための援助の工夫

—園行事への取り組みを通して—

浦添市立仲西幼稚園

伊 敷 佑 子

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の内容	2
1	一人一人の良さが活かされる生活とは	2
2	その子らしさを支えるための教師の姿勢	2
3	教師の援助（図1）	3
4	園生活と園行事とのかかわり（図2）	4
V	研究の実際	5
1	園行事年間指導計画	5
2	検証保育実践	8
(1)	主題	8
(2)	目標	8
(3)	設定理由	8
(4)	集団における実践	8
①	ねらい	8
②	活動内容	8
③	活動の経過	8
(5)	検証保育の評価	15
(6)	抽出児A男における実践 …「A男の育ちを見つめて」	17
VI	研究の成果と今後の課題	20
1	研究の成果	20
2	今後の課題	20
	おわりに	20
	〈参考文献〉	20

幼児が一人一人の良さを生かし、友達や教師と共に 元気に生活するための援助の工夫

—園行事への取り組みを通して—

【要約】

園生活の中で幼児一人一人が自分らしさを発揮して意欲的に遊び、いろいろな経験をして、望ましい方向に変容するための援助の工夫について、園行事への取り組みの中で幼児の思いや良さをとらえることに視点をあてながら研究を進めてきた。その結果、①多くの幼児が行事への取り組みの中で自分らしさを発揮し、充実感や満足感を味わうことができた。②仲間の中の自分の存在を実感し、良い刺激を受けながら遊びに発展が見られた。③園生活への意欲が育った。などを確認することができた。

キーワード □幼児の良さが生かされる園行事 □仲間と創る園行事 □園行事年間指導計画

I テーマ設定の理由

幼児期は、人間形成の基礎を培う大切な時期と言われる。幼児期における生活の体験がその後の「人間らしい育ち」を左右すると言っても過言ではない。特に心を育てる教育の大切さが強調される今、一人一人の良さや可能性を生かすことが保育に求められそのことにより人間としての生きる力が培われるものと考えられる。

現代の幼児を取り巻く生活環境は、少子化や核家族化が進み、特定の人との付き合いが多くなり、人間関係が固定化され、かかわり方も表面的になりがちである。そのため多くの人々と親しみ支え合って生活するための自立心や人とかかわる力を養うための阻害要因が多い。

これまでの園生活を振り返って見ると、自分の思いを生き生きと伝えてくる子もいる反面、自分のやりたいことが見つけられず、登園後もボーッとして過ごす子・友達や教師に自分の思いをうまく伝えられずに乱暴やわがままな態度をとる子・いつも教師の側にいる子・同じ遊びを繰り返し遊びに広がりが見られない子など、自分の良さを十分に発揮できない姿も見られる。

教師として、一人一人の幼児が園生活の中で自分の力を十分に発揮し、ありのままの自分を友達や教師に受け入れてもらう喜びや、友達の良さに触れ互いに影響しあって育ち合う体験を積み重ねることで

生活に対する意欲や満足感、充実感を味わってほしいと願っている。

幼児がありのままの自分を出していく時、うまくいくこととうまくいかないが生じるが、その中で相手の思いを感じたり、自分の思いを確かめたり、友達の中の自分を感じたり、自分を修正したりしてまた、自分を出していくことができ、そのことが共に育ち合うことへとつながるように思う。また、共に育ち合う園生活を願う時、これまでの「幼児と共に創る」を心がけてきた園行事のなかで、「仲間と共に喜びや楽しさを共有する」「友達と遊びを広げ工夫するきっかけとなる」「互いの良さが生かされ、良い刺激を受ける」などの点において、園行事のもつ保育の意義を確認することが多かった。

そこで、園行事への取り組みの援助を幼児の望ましい成長発達のためのひとつの手だてと考え、幼児の思いの表し方や良さをとらえることに視点をあてながら、その良さが生かされる援助の工夫を考えてみたい。

そうすれば、園生活の中で幼児一人一人が自分の良さを発揮して、友達や教師と共に元気よく生活できるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ 研究の目標

園行事への取り組みを通して一人一人の良さを生かし、元気に生活できる幼児を育てるための援助を工夫する。

Ⅲ 研究の仮説

- 1 幼児の生活の流れに沿った園行事を計画すれば一人一人の良さが生かされるだろう。
- 2 個々の幼児の思いを受け止め、仲間と共に創る行事の持ち方を工夫し、共感したり、互いに認め合ったりすることによって、元気に生活できる幼児が育つであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 一人一人の良さが生かされる生活とは

幼児は周囲のあらゆる環境から刺激を受け、自分の興味や欲求によっていろいろな活動をしながらか具体的、直接的な体験を重ねて、物事に組みんだり、環境にかかわったりする心情や意欲、態度が育っていく。一人一人の幼児が環境にかかわって生活していく時、それらを理解したり納得したりして自分のものにして育ち生きていくときの姿は様ではないが、生活の中で見せる「その子らしさをその子の良さ」として受け止めたい。

また、「一人一人の良さ」とは単に何かが出来るといえるという視点に限定するのではなく、一人一人の幼児のもつ雰囲気、表情、言葉、動き、考え方、思いなど、いわゆる人間らしく育ち生きていくための全てのことを「良さ」として捉えたい。

したがって、「良さが生かされる生活」とは幼児が十分に自分らしさを発揮できる生活であり、言い換えば幼児の中に潜んでいる可能性を十分に表出することのできる生活であると考え。そのためには園生活の中で幼児が

- (1) 目標がもてるようになること
- (2) その目標に安心して取り組めること
- (3) 目標への成功感、到達感が味わえること
- (4) そのことによって自信がもてるようになること

と

などの積み重ねが大切であると考えられる。

教師も幼児の心に共感し、温かく受けとめながら一人一人の幼児の存在を認め、その子なりの良さを見つけていく気持ちを失わないようにすることが大切であり、そうすれば幼児は安心して自分らしさを発揮して生活できるものとする。

2 その子らしさを支えるための教師の姿勢

- (1) 幼児のありのままの姿を肯定的に受け止める。

幼児の行動そのものを肯定するのではなく、その行動の底にある感情の動きを肯定する。

- (2) 一人一人の幼児の心に添う

幼児の生活に共感しつつ、幼児の立場に立った見方、考え方をしようと努力する。

- (3) 幼児との信頼関係を築く

園が安定した場になり、自分のやりたいことがやれ、言いたいことが言えるようにする。

- (4) 多面的に幼児を見る

保育後のミーティングで、各教師の気づいたこと感じたことを話し合う。そうすることで一人一人の幼児への理解を深める。

- (5) 教師や友達、周囲の環境とのかかわりの中で見る

幼児がどんなきっかけでどのように変容したか、幼児の内面的な変容を捉える。

- (6) 一人一人の発達のプロセスから見る

幼児は身体的、精神的発達の個人差が大きい。一人一人の人格を認め、その長所に目をとめる。

幼児の気になるところにいつでも目を向けるのではなく、どういう時にニコニコしているか、どういう時に意欲をもっているかなどと、幼児の光るところを見つける必要がある。

その子らしさを良さとして、ありのままを受け止めていくことは容易ではないが、幼児の内面的な良さを知らうとする教師の姿勢が大切である。

3 教師の援助

幼児が一人一人の良さを生かして意欲的に遊び、
いろいろな経験をして、望ましい方向に変容でき

るための教師の援助の方向性として次のようなか
わりを考える。

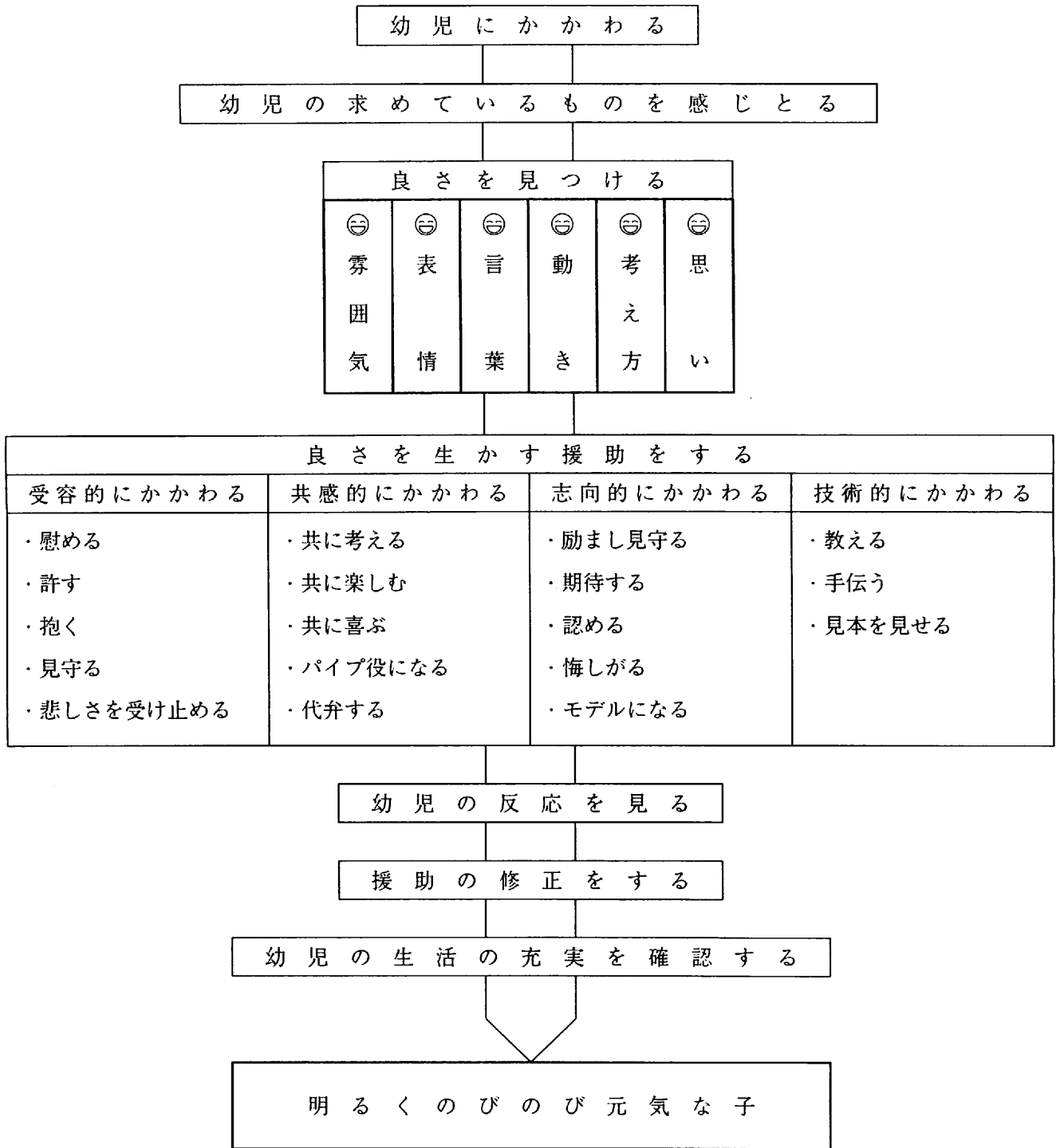


図1 幼児の良さを生かす援助の方向性

4 園生活と園行事とのかかわり

行事は幼児の生活と常に密接にかかわり、その
多くが生活そのものの中から生まれ、幼児の心に
楽しさを誘い、忘れ得ぬ思い出をつくり、幼児の

健やかな育ちを願う営みと言える。園行事もまた、
幼児の楽しみや喜び、共に共感しあえる生活の中
から生まれるものである。

仲間と共に創り、幼児自身が自分達のものとし

て実感できる園行事は、仲間と共に生活する楽しさを体験させてくれる。更にその中で友達の良さに気づいたり、互いに良い刺激を受け合うことができ生活への意欲が育つ。

また、園行事とは特定のねらいによって、あらかじめ計画した日時に非日常的に特別な経験を組織し、保育効果を高める活動として促える。この行事の中には、次のようなものが考えられる。

- ・ 幼児の成長の節目を祝ってやるもの（入園式、修了式、誕生会など）

- ・ 日常の保育活動のまとめとしての性格をもつもの（運動会、作品展、生活発表会など）
- ・ 園外の活動（遠足、見学、観劇など）
- ・ 保健や安全管理面から必要なもの（発育測定、健康診断、避難訓練、交通安全指導など）

行事の基本的な計画は教師が立案するが、行事への取り組みせ方についてはできる限り幼児の自主的な取り組みを可能にするように配慮することが大切であるとする。

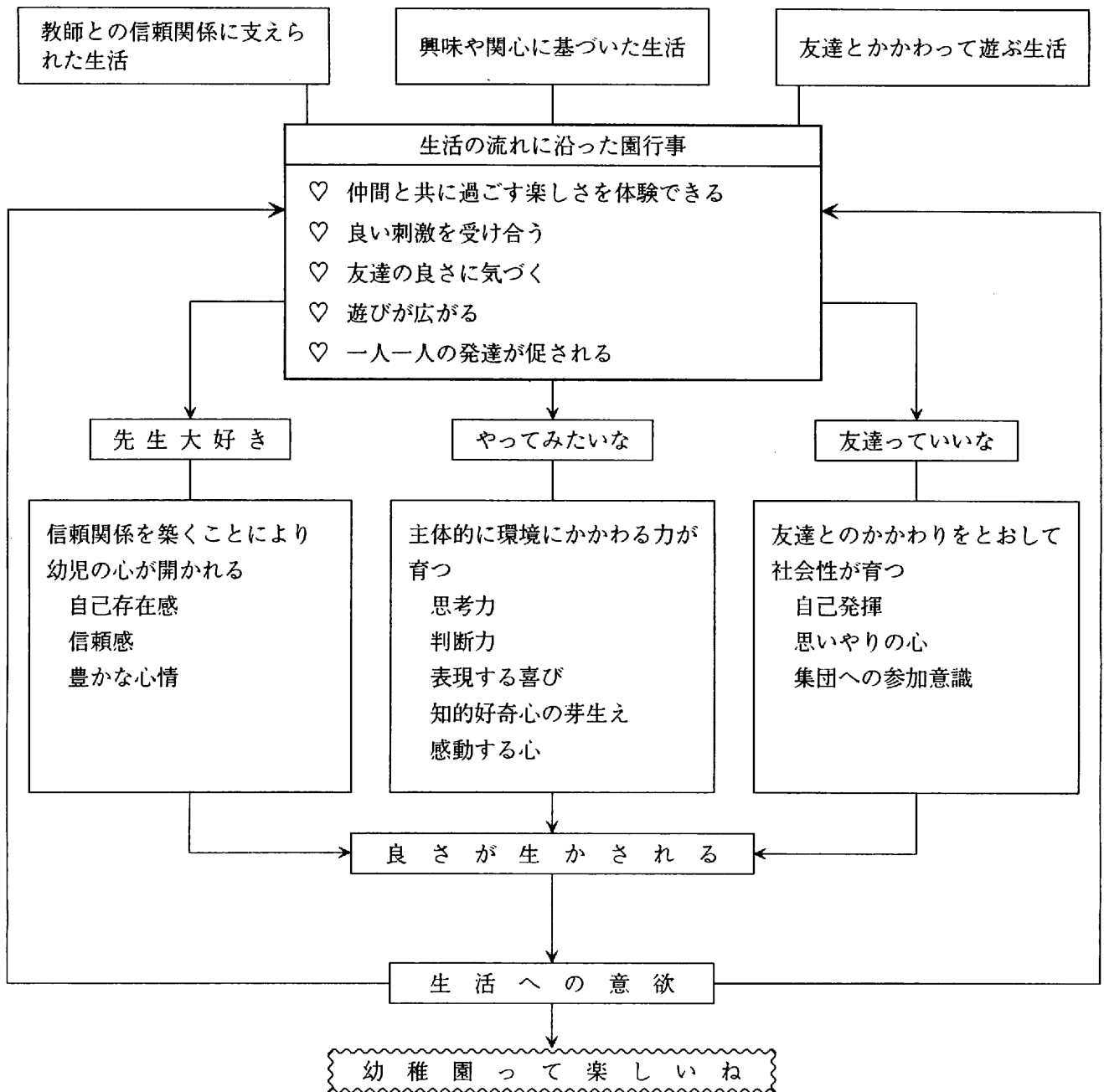


図2 園生活と園行事とのかかわり

V 研究の実際

- 1 園行事年間指導計画 [幼児の姿とその良さが発揮できると思われる行事とのかかわりをを考慮し、年間指導計画を作成した] — 良さが発揮できると予想される場面

期	1期(4月～5月)		2期(6月～7月)	
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活に対する不安と期待から緊張感があり、ひとりひとりの表出のしかたが異なる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・不安な気持ちを取り除かれ、自分から好きな遊びに関わったり、友達がやっていることに興味をもち同じことをやりたいという意欲が出てくる。 ・園生活に慣れ周囲の友達への関心が強くなり2～3人の友達ができてくる。 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・喜んで登園し、教師や友達とふれあいながら園生活に慣れる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・友達との遊びを楽しみ、試したり工夫したりして遊びを広げていく。 	
予想される行事	行事名	ねらい	行事名	ねらい
	<ul style="list-style-type: none"> ・入園式 ・交通安全指導 ・あさがおの種まき ・子供の日集会 ・誕生会 ・お好み焼きパーティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日から幼稚園生になったんだという喜びと希望をもつ。 ・楽しみながら交通ルールを理解する。 ・開花への期待と喜びを体験する。 ・元気で強い子に成長するようにこいのぼりを掲揚し、みんなで祝う。 ・大きくなることにあこがれを抱き喜びを感じる。 友達の誕生日を祝う。 (2期,3期,4期,5期へ) ・前年度の園児が今年度の園児のために栽培してくれた野菜を収穫して味わう。お兄さんお姉さんに<u>ありがとうの気持ち</u>をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春の遠足 ・芋の植えつけ ・親子ミニ運動会 ・父の日 ・牛乳パックプール ・園外保育 ・一学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公園や<u>自然に目を向け</u>、小動物や自然物を見つけたり遊具を使って楽しく遊ぶ。 ・芋の収穫に期待し、また植え付けの仕方を教えてくれた<u>おじいさんに尊敬の気持ち</u>をもつ。 ・親子で歌やダンス、体操、障害物競争などを楽しみ、スキンシップをもつ。 ・お父さんに感謝の気持ちを込め<u>プレゼント</u>を作る。 ・廃品を利用してみんなで<u>楽しい遊具</u>を作り遊ぶ喜びを味わう。 水あそびに慣れる。 ・せみとりを楽しむ中で<u>生態や命に気づく体験</u>をする。 ・一学期間元気に楽しく過ごせたことを喜び、楽しい夏休みや二学期にも期待をもつ。
環境及び援助	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と触れ合う機会を多くし、気持ちの安定と親しみがもてるようにする。 ・家庭でも遊んだ経験のある遊具を中心に用意し、ひとりひとりが安定して遊べる場を作る。 ・事前に調査表に目を通して幼児の大まかな家庭環境や生活の状況を把握しておく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びが充分楽しめるように教材の種類、内容、置き場所など活動の様子を見ながら設定する。 ・生活を楽しむ体験を増やせるような場を作る。 動植物、廃品コーナー、大型積木等 ・一人一人の子どもをよく理解する努力をし集団生活の仕方を個々に合わせて指導する。 	

2 検証保育実践

(例年4期と5期に分けて行っている運動発表会と生活発表会を、今年は子どもの姿と園の実状を考慮して、4期にまとめて行うことを計画した)

(1) 主題

「にこにこなかよし発表会」

(2) 目標

共通の目的に向かって、自分の思いや考えを出し合い、友達や教師と共感したり、認め合ったりして取り組むことで生活への意欲を高めていく。

(3) 設定理由

幼児は友達や教師と生活を共にする中で、感動を共有し、互いに影響を及ぼし合って生活の幅を広げていく。これまでに子ども達は、様々なあそびや行事への取り組みを体験して、相手の気持ちに気が付いたり、自分の気持ちもコントロールしながら互いの気持ちの結びつきを深めてきた。また、「〇〇ちゃんは、かけっこが得意。△△ちゃんはやさしい」など、友達の持ち味がわかり、それを認めることもできるようになってきた。このような体験の積み重ねは、集団の中の自分の存在や友達の良さに気づき、自分らしさの発揮や生活への意欲へとつながっていくものと考え、次のような実践を行った。

(4) 集団における実践

① ねらい

- ・「にこにこなかよし発表会」に向け、みんなで考えを出し合い、協力して成し遂げる喜びを味わう。
- ・友達の考えや思いを受け入れたり認めたりすることで、友達の良さに気づき仲間と共に過ごす楽しさを味わう。

援助のポイント

- ・幼児同士が話し合える場面を多くつくる
- ・友達の思いに気づくような言葉かけを心がける
- ・幼児の思いが出せるような雰囲気をつくる
- ・課題が見つけられるように個々を把握する
- ・幼児のもつ良さを他児にも伝える機会をつくる

② 活動内容

- ・発表会の種目や係をみんなで決めたり、また、その方法やすすめ方などを全園児又はチームの友達や教師と相談し、協力して取り組んでいく。
- ・種目や係の選択は、クラスの枠を解きそれぞれの幼児の興味や関心に合わせて選択する。

③ 活動の経過

良さの場面 良さの促え 援助

「発表会ってなあに」……11月21日(金)

幼小合同の運動会が終わり、園庭では体を思いきり使ってリレーや竹馬や縄跳び、缶ゲタ等で元気よく遊ぶ姿が見られるようになった。日々の遊びの様子を帰りの会を利用して他児に伝えたり、また個々の頑張りを全体の前で認めてあげる機会をもつようにした。挑戦して頑張っていることを友達や教師に認めてもらう体験の積み重ねが更に活動への意欲につながり、また他児への刺激となっているいろいろな活動に意欲的に取り組む子が増えた。「なかにしようちえんって楽しい遊びがたくさんあって楽しい」との声も聞かれ

るようになる。教師が「去年のお兄さんやお姉さん達も楽しい遊びを考えてやっていたよ」と投げかけてみた。「どんな遊び?」「竹馬もやっていたの?」との声が挙がる。そこで去年の生活発表会のビデオをみんなで見ることになった。ビデオの中で舞台上に張り出された「はっぴょうかい」の文字に気づいた子から「発表会ってなあに?」の質問が飛び出す。そのことをすこし取り上げ話題にしてみた。以前に経験のある子がみんなの前に出て話してくれる。「自分の得意な遊びや頑張っている遊びをお家の人に見てもらおうんだよ」「おどりとかもやる」「歌も歌うよ」「保育園でもやったことある」などと教えてくれた。「みんなだったらどんなことがやりたいか」などの話に発展し、「やってみたい」「楽しそう」の意見が出てみんなが発表会をやることに決定する。

- ☺ 疑問に思ったことを言葉にすることができる。
- ☺ 自分が知っていることを友達に教えてあげることができる。

・ 幼児が疑問に思ったことを教師がすぐに答えるのではなく、幼児に返し一緒に考える中で友達の実在や良さの発見につながるようにしていく。

— 「なにを発表しようかな」……11月25日(火) —

最近興味をもって取り組んでいる遊び、過去に経験したことのある遊び、去年のビデオを見て興味をもった遊び、人気のあるテレビアニメなどが挙がる。その中から子ども達の思いと教師の思いを合わせ発表種目を決めることになった。その結果・跳び箱・縄跳び・竹馬・ダンス・合奏・ポケモンの紙芝居・歌に決定する。

- ・ 幼児の興味や関心を把握しながら共に考える。
- ・ できるだけ多くの子供達の意見や思いが活かせるような種目の決定をし、一人一人が意欲をもって取り組めるようにしていく。

— 「どの種目に挑戦しようかな」……11月26日(水) —

子ども達の遊びへの興味や生活の流れを考慮し教師で話合った結果、ひとり二種目出場の解体とすることにした。張り出されたそれぞれの種目の紙に名前を書いてもらう。

- ・ 自分でまだ名前の書けない子は教師が手伝ってあげる。

— 「こんなことがやりたい」……11月27日(木)～12月1日(月) —

種目別に分かれて話し合いをし、どんなふうに参加するかを相談しながら進める。

縄跳び…サッカースキップ、まえとび、けんけんとび、歩きとび、トランポリン縄跳びが挙げられたが、舞

台での発表となるためトランポリンは場が狭く危険と思われたのでやめることにする。

竹馬…乗れる子と乗れない子が集まった。「竹馬乗れない子がいるけどどうしようか?」と尋ねてみた。「教えてあげる」「乗れるように何回も練習すればいい」「つかんであげる」と言う。「まえあるき」「ジャンプ」「階段あるき」をすることに決まり乗れない子への補助役として「ちびっこせんせい」も登場する。

跳び箱…自分たちが発表したいものを子ども達に出させ、それを実際にやってみてできそうなものを決めていった。「4段跳び」「マットで側転」「マットででんぐりがえし」をすることに決まる。

ダンス…女の子たちのチームとなった。「どんなダンスが踊ってみたい?」との質問に以前誕生会で踊ったことのある「ポンテげんき」や「ロックンロールオムレッツ」「エイサー」が出た。子ども達の興味とアレンジを生かせそうな曲という点から「ロックンロールオムレッツ」に決まる。

合奏…使う楽器をひとつずつ紹介し興味をもたせる。教師があらかじめ用意しておいたいくつかの曲を楽器を交代して何度も楽しんだ後に、発表会でやりたい曲、「クラリネットをこわしちゃった」と「踊ろう楽しいポーレチケ」にしばった。

紙芝居…子ども達の大好きなキャラクターのひとつであるポケモンの紙芝居がやりたいという希望が多く、題名もみんなで考えて「ピカチュウとミュウのだいぼうけん」となった。好きな食べ物や乗り物などをストーリーに登場させ、場面毎のグループを決めた。ストーリーはグループを中心にしてみんなで考える。

☺ 困っている友達をなんとかしてあげようとするやさしい思いやりの気持ちがある。

- ・みんなで同じ目標に向かってイメージを出し合って取り組んでいけるよう、なるべく一人一人の思いを伝え合う機会を多くもつ。
- ・発表会が楽しんで遊ぶ活動の延長となるよう種目に弾力をもたせたり、友達や教師と共に楽しさを共有していけるようにする。

—「発表会の名前を決めよう」……12月2日(火)—

「なかにし発表会」「たのしい発表会」「みんなががんばる発表会」「ポケモン発表会」「なかよし発表会」「にこにこ発表会」「もりもりがんばり発表会」「わくわく発表会」と楽しい名前がたくさん出された。その中からその意味を考え子供達の意見を聞き「にこにこ」と「なかよし」を合体させた「にこにこなかよし発表会」とすてきな名前がついた。

☺ 発表会を楽しいものにしようとする思いが感じられる。

—「どんな係があるかな」……12月3日(水)—

発表会にはどんな準備や係があるか全体で話し合う。教師も仲間のひとりとして一緒に考える。

看板係…来てくれたお客さんが場所を間違えないようにする。

かざり…お客さんもわくわくしてくるし、みんなもいい気持ちで発表会ができる。

プログラム係…次は何をするか、お客さんがわかるようにする。

マイク係…プログラムのお知らせをマイクを使ってする。

お手紙係…発表会をやる日や時間をお手紙で知らせる。

— 「せんせい、どの係になるかもう決めてある」 …… 12月4日（木） —

登園するとすぐに 「せんせい、僕どの係になるかもう決めてあるよ。昨日から決めてある」 とはりきっている。早速みんなで集まり、自分がやりたい係を選んで、各係に分けられた色画用紙に名前を書いてもらう。 「係をイメージして選ぶ子、好きな友達と一緒に選ぶ子、慎重に選ぶ子、なかなか選べない子」 は教師が個々に思いを聞いてあげながら選択できるようにした。

㊦ 生活発表会を幼児なりにしっかりととらえ、自分なりの目的を見つけることができる。

㊦ 係を選ぶにしてもその子なりの選ぶ理由がありそれぞれの思いをもっている。

・ 選べない子にはどうして選べないのだろうと肯定的な関心を寄せ、それぞれの子の持ち味や良さが発揮できるような係の選択ができるように見守り、時には教師も相談にのりながらどの子も主体的に活動できるようにしていく。

— 「係の仕事を相談しよう」 …… 12月8日（月） —

各係に分かれて、自分の係はどんなことをするのか、どんなふうにやりたいのかを話し合う。

看板 …… どの看板を作ろうか相談する。 「箱を重ねてからやったら?」「いろいろな色を使うといいと思う」「ポケモンは?」「きょうりゅうは?」「二匹作ろう」 など意見が出された結果、きょうりゅうの看板に決定する。

㊦ 自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりすることができる。

飾り …… ある程度教師も提案する機会をもち、みんなで同じイメージをもって取り組む。

プログラム …… 去年の発表会のプログラムを参考に話し合いをする。 「ふたりでペアを組んでやろう」「字が書ける人と絵が描ける人が組んだらいいんじゃない?」 と意見がでる。「①～⑩のプログラムがあるけどどうしようか」と聞いてみたがピンとこない様子だったので「自分の出番のプログラムを作ったら?」と提案し、ペアを組んでもらい相談しながら担当のプログラムを決めた。

㊦ どうすればうまくいくか役割を理解して行動しようとする。

マイク …… 発表会のプログラムを知らせ、その中から自分がやってみたい場面を選びアナウンスを担当するが、自分の出場種目の方がアナウンスをイメージしやすいので担当はなるべく出場児の中から決めるようにした。

手紙 …… どの手紙の内容にするか、なるべく子ども達の考えが引き出せるようにし、また字が書けな

い子は絵を担当してもらうことでどの子にも意欲がもてるようにする。

- ・それぞれの子の持ち味が発揮できるよう個の様子を把握し、他児にも伝える機会を多くもつようにする。

—「プログラムに楽しい名前をつけよう」……12月9日（火）—

出場するプログラムに楽しい名前をつけ、他のチームや家の人にも知らせることにしたらどうだろう提案する。いろいろ楽しい名前が出され、その中から多数決で決定する。

(みんなでオリンピック) (なわとびがんばるぞ) (みんなでダッシュだ) (げんきにがっそう) (ぴかちゅうとみゅうのだいほうけん) (たのしいオムレッツダンス)

- ・子どもだけで行う発表会にこだわるのではなく、教師も仲間のひとりとして参加し、一緒に考え楽しむ姿勢で援助していく。

—「僕の係はこんなことをやっているよ」……12月10日（水）—

遊戯室にみんなで集まり、各係の取り組みの様子を伝え合う機会をもつ。その後、各係に分かれて係の仕事を進める。

- ・取り組みが義務的なものとならないよう、活動の中でその都度話し合ったり個々の取り組みの様子を認め励ましながらか主体的に関わっていけるように援助する。
- ・それぞれの個々の持ち味が発揮できるよう個の様子を把握し、他児にも伝える機会を多くもつようにする。

日時	平成9年12月11日(木) 9:30~10:30		幼 児 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・「にこにこなかよし発表会」でやる種目を他のクラスの友達や先生と一緒に楽しく取り組んでいる。 ・発表会ではどんな係が必要か、また自分はどんな係になりたいかなどをみんなで話し合って決めたり、各係に分かれて取り組みについての相談をしたことで大体の子が係のイメージをもって楽しく取り組めるようになってきた。 ・「12月20日は発表会だね」「おばあちゃんも見に来るって」と楽しみに待つ声も聞かれる。
対象児	全園児(95名)			
場所	遊戯室(がんばりまんの部屋)→各係のコーナー			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思ったことや考えたことを出し合って活動に取り組む。 ・良さを発揮して友達や先生と力を合わせる。 			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会に向けて、各係の仕事について話し合ったり、必要なものを作る。 			
時間	環境の構成	幼児の活動	教師の援助	
9:30		<ul style="list-style-type: none"> ・集まる ・「あわてんぼうのサンタクロース」を歌う ・昨日までの係の活動の様子を思い出す。 ・友達の話静静地に聞く。 ・自分の係の活動する場所を知る。 ・係の活動場所へ移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊んだ物を片付け、トイレを済ませて静かに集まるように声をかける。 ・「歌のちびっこ先生」を募集し前を出てもらい「ちびっこ先生」を中心にしてみんなで元気いっぱいたえる雰囲気をつくる。 ・それぞれの係の中から一人ずつ話をしてもらう子を指名する。 ・「〇〇係は頑張っている」「発表会が楽しみだね」と、互いの係の取り組みの様子を認め合い全体の意欲を高めていけるようにする。 ・それぞれの場所へスムーズに移動できるように活動の場所や担当の教師を表示しながら伝える。 ・移動の際、ぶつからないように係毎時間差を置いて移動させる。 ・話し合う場面では、なるべく一人一人に話す機会を与えるようにして、その子なりの思いや考えを引き出し受け止められるようにする。また、他児にも伝える。「〇〇さんのはいい考えだね」「お父さんやお母さんにもよくわかるだろうね」「みんなにも教えてあげて」 ・友達の話聞くことによって、「自分もやってみみたい」という気持ちを持ち、また友達の存在や良さを認めていけるようにする。 ・仕事を進めていく中では、教師も発表会へむけての楽しい話題を心がけ、どの子も発表会への期待感もてるようにしていく。 ・一人一人の一生けんめい取り組んだ姿を誉め満足感をもたせながら明日へつなげていく。 ・自分が使った物だけでなく、みんなで使った物も片付けるようにさせる。「〇〇さんは片付けが上手だね」「気持ち良くなったね」と、教師も一緒になって片付けるようにする。 ・活動の終わりはそれぞれの係のペースで多少違うことも予想されるので早く終わった係は臨機応変に対応していく。 	
10:00		<ul style="list-style-type: none"> ・これからやることについて係の友達や先生と話し合う。話を聞く。 ・自分の思っていることを話す ・友達と協力して係の仕事をすすめる。 ・活動を終える。 ・片付ける。 ・手を洗う。 ・各クラスへ戻りお弁当の用意をする。 		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの中で幼児の良さが発揮できたか。 ・友達や教師と一緒に話し合ったり、協力したりして係の仕事をすすめることができたか。 ・自分の役割を理解して取り組むことができたか。 			



(看板係)

図3 「ここは青色紙を貼った方がいいよな」



(マイク係)

図6 「マイクを持つとドキドキするとおもしろい」



(飾り係)

図4 「園長先生、飾りの作り方教えてあげるね」



(プログラム係)

図7 「絵を描くのはいすき、だからプログラム係だよ」



(お手紙係)

図5 「〇〇君は字を書いて、僕は絵を描くから」



(話し合い)

図8 「みんなで一緒に考えると楽しいことができるよ」

—「失敗は成功のもとになるよ」……12月12日（金）—

時には活動が行き詰まりを見せたり、予期せぬハプニングが起きたりもしたがその都度子ども達を集め一緒に考え話し合うことで解決していくようにした。

・それぞれの種目に頑張って取り組めるよう励ましていくが、その過程の子どもの気持ちやつぶやきを受け止めながら、弾力をもたせた取り組みの仕方を援助し、個の力が十分に発揮できるようにしていく。

「にこにこなかよし発表会」リハーサル（パート1）……12月15日（月）

本番と同じようにプログラムに沿ってひととおりに通してみる。

「にこにこなかよし発表会」リハーサル（パート2）……12月19日（金）

本番と同じように衣装をつけてやってみる。

—「にこにこなかよし発表会がんばるぞ」……12月20日（土）—

いよいよ本番、朝から「きょうの発表会、大成功するかな」「先生ドキドキするね」「お客さん集まっているかね」とわくわくどきどきしながらも、意欲満々の子どもたちだ。緊張感の中にも家の人に見てもらい喜びがどの子にも感じられた。

㊦ 緊張しながらも頑張ろうとする、発表会への意欲が感じられる。

・これまでの発表会への取り組みの過程を誉めたり、家族の方々が園に見に来てくれたことを共に喜びながら、どの子も自信をもって発表できるように励ましていく。

(5) 検証保育の評価

《子どもの声》

良	さ
・たいし君が <u>字</u> を書いたよ、 <u>ほくは絵</u> を描いた。楽しかったよ。	
・ <u>(わたしの好きな) ロックンオムレツ</u> を踊ったから楽しかった。	
・跳べなかったけど頑張って跳んだから楽しかった。	
・(マイクでお話する時) <u>ゆっくりと大きくしゃべったよ</u> 。	
・手話の歌も <u>歌えるようになった</u> 。	
・みんなとおしゃべりもしない、ケンカもしないからいい気持ちだった。	

・竹馬は <u>にこにこ</u> して楽しかった。
・初めて「 <u>ちびっ子先生</u> 」になれてうれしかった。
・ <u>ヤーすと</u> 、かいとと一緒にポケモンと跳び箱の絵を描いた。字は練習しているから簡単だよ。
・(プログラムは)全部はかけないから <u>つねあき君</u> にも手伝ってもらった。
生活の意欲
・まなみさんが跳び終わって、次あやの番になって <u>胸がドキドキ</u> した。
・ダンスをやって、なにか <u>心もいい気分</u> になって楽しかった。

- ・歌をみんなで歌ったから楽しかった。
- ・楽器楽しかった。小太鼓にもう一回挑戦したい。
- ・もっと頑張りがかった、だって楽しいもん。
- ・マイクに入るとき、ドッキンドッキンわくわくしておもしろかった。
- ・マイク係は緊張したよ、でもできたよ。発表会次もやりたいよ、もっと続けたいのに。
- ・看板係は結構おもしろかった、のりべとべとだったから。
- ・今度また（発表会を）やるんだったらマイク係をやってみたい。
- ・先生が、あやの達にお手紙を書かせてくれたから、うれしかった。
- ・窓とか舞台に飾りを飾ってきれいになったからうれしかった。

《父母の声》

- ・入園式の時は泣いていた子が、大勢のお客様の前で嫌がることなくよくやっていた。また、マイク係も上手にやっていたのでびっくりした。改めて成長を実感した。
- ・竹馬の時、ちびっ子先生をしていたのにはびっくりした。自分の事だけでなく、お友達の役にたっていた夢希にはびっくりでした。顔の表情を見るといきいきとしていて自信たっぷりてかわいく見えました。
- ・家では落ち着きがなくてほとんどじっとしていることなどない子ですが、発表会ではたくさんのお友達や父母の前で園長先生の紹介を少し照れながらもマイクでちゃんとお話しできてよかったです。

- ・今まで出来ないことをすぐあきらめる傾向があったのに、出来ないことにもチャレンジできるようになったことを嬉しく思います。
- ・あまり上手ではなかったけど、舞台の上で元気に誇らしげにやっている姿に素晴らしいと思いました。幼稚園という社会の中で適応していることを実感し、小学校というもっと大きな社会生活をする第一段階はクリアしたかなと、安心しました。
- ・家では見ることのできない真剣な表情とみんなで協力して何かを成し遂げる態度に、幼稚園生活を通してなるみなりに成長したと嬉しくおもいました。
- ・縄跳びの時、「お友達がひとりになってしまったから（その場で）一緒にでたよ」ということを聞いてお友達のことを考えてあげられたんだと、ちょっと嬉しく思いました。
- ・失敗してもあきらめずに何度かやり直していたので良かったと思う。
- ・紙芝居作りをお友達と協力してやったという事を聞いて、素晴らしいことだと思いました。
- ・親が来るととても嬉しそうでした。一生懸命やっていた方だと思います。以前よりは、少しだけ落ち着きが出てきてると思います。
- ・自分なりに最後まで頑張っていた。自信にあふれていた。

《結果と考察》

- ・自分らしさの発揮ができた、生活への意欲が出た、自信につながった、などの点において幼児の育ちを確認することができた。
- ・一人一人の幼児の考えや思いを他児にも伝える機会を多くもち、共に認め合い、励まし合えたことが一人一人の意欲につながったと思われる。
- ・園生活の中で自分が興味や関心をもったあそびの延長としての発表種目の選択が自分らしさの発揮につながったと思われる。
- ・係の一員としての自覚をもち、仲間と共にその役割を果たせたことが、それぞれの幼児の自信につながったと思われる。
- ・教師もそれぞれの持ち味を発揮して全職員で全園児を育てようの姿勢をもって、どの幼児にも進んでかかわり連携を取り合いながら保育を展開できたことが幼児のもつ良さを発揮する要因のひとつになった。

(6) 抽出児A男における実践 …「A男の育ちを見つめて」

【これまでのA男の姿】

活発に活動し、元気がある。特に製作や砂あそびが好きで夢中になって遊んでいることが多い。反面、学級で一斉活動をする場に戻ることも遅くなりがちで、話を集中して聞く時間が短い。また園全体でひとつの目標をもって取り組む活動では集団の中に入ろうとせず、教師が無理に誘うことが時には不満を招き友達とのトラブルに発展することもある。ケンカっ早いところもある。

① ねらい

- ・ A男のもつ良さを生かし、友達や教師と共に生活する楽しさを味わう。

援助のポイント

- ・ A男の良さに目を向ける
- ・ A男の良さを他児にも伝える
- ・ A男と他児の思いを伝え合い一緒に考える
- ・ 全職員でA男を育てる姿勢をもつ

② 活動内容

- ・ 友達と力を合わせて発表会に取り組む。
- ・ 思いや考えを伝え合う。

—— 良さ …… 援助

11/27

A男の出場する紙芝居チームでポケモンの紙芝居を作ることになった。「せんせい、ポケモンの紙芝居つくるんだよ」「いつもテレビで見ているからわかる」「芝居チーム終わるの早い」「もっとやりたい」A男の興味のある活動が取り上げられて良かった。

教師も「楽しみだねえ」と言葉をかける。

教師に伝えて来る表情も明るい。興味のある活動がきっかけとなって、友達と目標に向かって取り組む楽しさ、やり遂げる充実感を味わってほしいと思い言葉にして期待をした。

12/1

紙芝居チームの友達の中で、長い時間一生懸命に絵を描いている。口数も少ない。

好きな遊びに集中して取り組むA男の良さが感じられるので、A男の取り組みの姿勢を大事にしてしばらく見守っていくことにする。



図9 「ゆっくりゆっくり、丁寧に描こう」

— 12/2 —

今日も紙芝居チームの活動の時間になると腰をかがめて、丁寧に丁寧に描いている。時々「えーおまえちゃん
とぬれー」などと、A男なりのアドバイスを友達にする。

友達の行動にも目を向けることができ、一緒に力を合わせないとうまくいかなくなることもA男なりに感じとってきているようなのでその取り組みの様子を全職員に伝え話題にする。各教師がタイミングをみてA男の頑張りに対し、言葉にして励ますことにした。

— 12/9 —

「せんせい、もうちょっとで完成するよ」と自分から声をかけてくる。完成への期待と喜びを伝えたい気持ちが表情から伺える。

紙芝居チームの目標に向け、活動の充実を味わっているようだ。自分の思いを言葉にして教師に伝えてくるA男の気持ちを感じ「早く紙芝居チームの発表がみたいねえ」と教師も共に完成が近いことに期待し共感する。

— 12/10 —

もうひとつの出場種目である竹馬も努力して上手に乗れるようになった。チームの中でまだ乗れない友達の補助としての「ちびっこ先生」の役割を希望する。

事ある毎にトラブルの中心にいたA男が困っている友達に対するやさしい思いやりの一面を知ることができたことはなんと嬉しいことだ。そのことを他児にも伝え誉める。

— 12/11 —

係は自分から進んでマイク係に希望する。アナウンスのことばについて係の友達と一緒に話し合い練習する。

(少し話し合いに時間がかかり集中できない)

T「A君はなにを紹介してくれるの？竹馬だった」

A男「跳び箱だよ」

(A男の番になり一生懸命話そうとするがマイクが一本しかなくうまくいかない。退屈し始める)

T「A君、もうお話し合いやめる？」

A男「これ楽しくない」

T「じゃーマイク係やめちゃうの？」

A男「昨日はやりたかった」

(A男の気持ちを確認しながらマイク係の友達や教師と話し合う)

T「A男君、やりたくないって言っているけどみんなどう思う」

M子「お母さん達がっかりする」

H男「発表会がメチャクチャになる」

S子「あきらめないで頑張らないといけない」

A男「マイク係はやめたくない、明日は頑張る」

I子「ゆびきりげんまんもしたら」

など、それぞれの気持ちを話してもらい解決する。

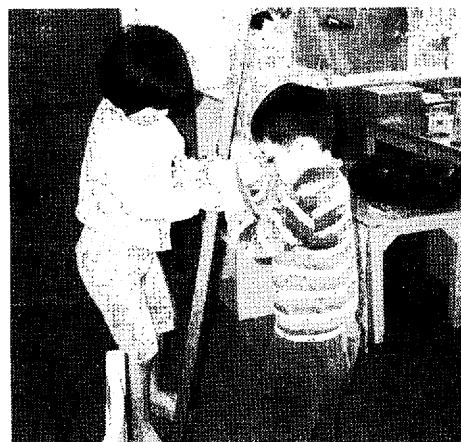


図10「僕がつかまえてあげるから、頑張ってね」

マイク係全体の活動を進行させたいという教師の思いが先行してしまったようだ。(教師のリードが多すぎた。マイクが二本必要だった)

A男の気持ちを受け止めながらその場面を通してみんなで考える機会となった。

A男は集団の中の自分の存在を、他児は仲間としてのA男の存在を確認することができた。



図11 「一生懸命マイクに近づいて話そうとする
A男」



図13 「友達と一緒に元気一杯歌う」



図12 「自信をもってマイク係」



図14 「意欲と満足感に満ちた笑顔で」

《結果と考察》

- ・集団の中でも落ち着いて行動できるようになった、活動に自信と意欲が感じられるようになったケンカが少なくなった、友達にやさしく接しようとするようになった、などの点において、A男の育ちを確認することができた。
- ・A男は集団からはみ出す行動が多く、そのことに目が奪われがちであるが、興味や関心をもった遊びに根気強くかかわろうとする力がある。
- ・教師がA男の良さを十分認め、友達に伝えていくような援助をしていくことで、さらに良さが発揮できると思われる。
- ・教師は、A男に対し話を聞く力が少し弱いと感じていたが、紙芝居や竹馬の発表のし方を相談する場面では根気強く聞く態度が見られ、A男の興味のもち方や教師の援助のあり方によって左右されることもあるが、本来聞く力は十分に育っていることに気づいた。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

〔仮説1について〕

園生活の流れの中で幼児が興味や関心をもった遊びを発表会に取り入れたことで、幼児一人一人の良さが生かされたことが、次の場面を通して確かめることができた。

- (1) 幼児同士教え合っている場面
- (2) 困っている友達を何とかしようと助け合っている場面
- (3) 思い思いの意見を出し合っている場面
- (4) 自分なりの課題を見つけて取り組もうとする場面
- (5) 友達の良さを認め合っている場面
- (6) 発表会を終えた後の子どもの声

〔仮説2について〕

個々の幼児の思いを受け止めるために、次のような援助を工夫した。

- (1) 幼児が疑問に思ったことを教師がすぐに答えるのではなく幼児に返し一緒に考えるようにした。
- (2) 教師も幼児と共に楽しさを共有しながら幼児の興味や関心を把握するように努めた。
- (3) それぞれの個の持ち味が発揮できるような場面を設定した。

そうすることにより、自分の存在感や友達の良さに気づき、仲間といることの楽しさを味わい、元気に生活する姿が見られるようになった。

2 今後の課題

- (1) 一人一人の幼児をより理解するために、教師間の共通した幼児理解や保育姿勢を再確認し、保育カンファレンスの実践をしていきたい。
- (2) 一人一人が生かされ、主体的にかかわる園行事の精選をしていきたい。

おわりに

一人一人の幼児が幼稚園は楽しい、友達や先生と過ごすことは楽しいと思えるような園生活をと願

ながら研究を進めてきました。研究としては、まだまだその入り口に立ったばかりの未熟なものですが自分の保育を見つめ直す意義ある機会となりました。これからも、幼児を愛し、一人一人の良さに目を止め、幼児に学び、幼児を生かす保育を目指したいと思います。

これまでの6ヶ月の研究期間を多くの人的環境物的環境に恵まれ、無事に修了することができました。研究期間中、やさしく丁寧に御指導くださいました浦添市教育委員会の比嘉美也子指導主事、宮城久子指導係主査、研究所に快く送り出してくださいました金城政弘園長、金城文子副園長、陰ながら支えてくれた職員の皆様に心から感謝申し上げます。

また、いつでも研究を励まし見守ってくださった研究所の田中一郎所長、嵩原安哲係長、當間正和指導主事、温かい言葉をかけてくださった職員の皆様、最後に6ヶ月間、楽しさも苦しさも共にした研究員のメンバーに厚くお礼を申し上げます。

《参考文献》

- 幼稚園教育指導書増補版 文部省 フレーベル館
保育実践用語辞典 西久保礼造 ぎょうせい
その子らしさを生かす・育てる保育 汐見稔幸
IUP
幼児一人一人のよさと可能性を求めて
文部省幼稚園課内・幼稚園教育研究会
東洋館出版社
子どもがつくる 仲間とともに育つ幼稚園 渡辺明
フレーベル館
姫路市立教育研究所 平成8年度 研究紀要
観察法による幼児理解 西久保礼造
ぎょうせい
保育記録のとり方・生かし方 関章信
すずき出版